



会長 菅原文之
 幹事 佐々木源悦
 会報 佐々木崇光 佐藤静市
 高橋利光 渡辺光悦

例会場 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327
 例会日 毎週木曜日 12:30~13:30
 事務所 ホテルサンシャイン佐沼 ☎22-8180 FAX22-0327

第2341回例会 2012. 2. 28 No.32

〈第2520地区第5分区分米・栗原ゾーン合同例会〉
 於：ホテルグランドプラザ浦島 18:30~

本日の出席率

- ・本日の出席率 78.75%
- ・前回確定出席率 100%

合同例会プログラム

1. 開会点鐘 18:30
2. ガバナー補佐挨拶 佐藤尚ガバナー補佐
3. 各クラブ会長挨拶
築館RC 佐沼RC 栗駒RC 若柳RC
4. 各クラブ幹事報告
築館RC 佐沼RC 栗駒RC 若柳RC
5. 講演「第2520地区における震災復興支援の現況」
八谷郁夫地区財団委員長

6. 閉会点鐘 19:30

・佐藤尚ガバナー補佐挨拶

今年度はIMの開催を中止しました。今までは時間とお金をかけてやっておりましたが、それだけの意義があるのかということが、ロータリー歴の中で疑問に思っていたことでもあり、又、IMは是非やらなければならないことではないということも話を聞いており、実質的にはお互いの情報交換、隣のクラブがどのような活動をしているかということを知り合う会議でありますので、そういったIMに十分匹敵するような勉強会になるのではないかと考えて今年度に関してはIMを行わないで合同例会にさせていただきました。

ガバナー公式訪問が4クラブ合同ということでしたので今回が2回目の合同例会となります。今後は、その年度のガバナー補佐を中心に考えていただければ良いのではないかと考えております。

震災の影響も色々あり、復興に関して各クラブよりご支援をいただきありがとうございます。復興支援につきましては後程八谷郁夫地区財団委員長より第2520地区の現況についてお話をいただくことになっ

ております。2520地区に於て、今復興支援ということで頑張っておりますが、津波の被害を受けた沿岸地域26クラブがなくなるのではないかと心配致しましたが幸い全て現存しそれぞれに頑張っております。石巻のクラブに聞きますと月2回の例会しか開けないという話も聞いております。

既に次年度の行事が進められており、小野寺正男次期ガバナー補佐より連絡があったと思いますが、3月18日に会長エレクト研修セミナーが開催されます。4月21日、22日には仙台で地区大会が開催されます。5月20日には地区協議会が二戸で予定されておりますので会長、幹事はじめ関係会員よりよろしくお願い致します。又、毎年開催しております登米・栗原ゾーンゴルフコンペは6月3日(日)に予定しています。尚、5月12日に築館クラブ主管でローターアクト年次大会をエポカ21に於て開催のため、全国からローターアクトが来ますのでお知らせいたします。

会長要件 菅原文之会長

先程、佐藤尚ガバナー補佐より次年度に向けての行事の報告があり、もうそういう時期に入ったのかなという思いでおります。

今年度はIMを変更して4クラブ合同例会を開催することになりましたことにつきましては、佐藤尚ガバナー補佐の説明の通りです。登米・栗原ゾーン4クラブの交流は連帯感を持つ上にも必要なことで、佐沼クラブでは阿部賢悟前会長の時から事業方針として、クラブ間の交流をしようではないかということで推進してきましたので、私も引き続き今年度もその方針を立てました。しかし、大震災の影響で頓挫してしまい残念に思っております。会員の皆様は地域で非常に重責のある方ばかりで気軽に各クラブの訪問はなかなか出来ない訳ですが、この様に4クラブが集まる機会を持ちますことは、非常に意義あることと思います。各クラブとの交流を活発にし、親しく友情を深めることを願っております。意義ある会合になることを心より祈っております。

幹事報告 佐々木源悦幹事

- ・ 榎山直樹直前ガバナーより
地区資金収支決算承認の件について
- ・ 仙台泉RCより
創立40周年記念式典出席に対するお礼状が届く
- ・ 北上RCより
創立50周年記念誌が届く
- ・ ときめき市民コンサート実行委員会より
コンサート開催協力に対するお礼状が届く
※会長要件、幹事報告は佐沼RCのみ

講演

「第2520地区における震災復興支援の現況」

八谷郁夫第2520地区財団委員長

「震災復興支援の地区の現況」という課題を与えられておりますので、それについてお話をします。

先ず、復興支援を行うためには原資というものが必要です。今、使わせていただいているお金は、義援金と過去の寄付金であります。地区に国内の義援金と海外からの義援金等18,935万円の義援金が入って参りました。このうち榎山年度で支出したのは約8,800万円です。8,800万円のうち復興支援と思われるものに250万円、約7,000万円は被災クラブ及び地区の全クラブに対して配分をされております。残りは榎山年度の一番大きな事業としてテントの配布のための諸経費に使われ、最終的に菅原年度に送られたお金は約1億円です。現在、菅原年度がかかっている義援金の残高が約24,000万円です。これを今後どの様に使って復興支援を行っていくかという形になります。因に、報道機関、赤十字、共同募金等で集められた国内での義援金は3,465億円で、90%以上が既に市町村に配布されております。前期のガバナー会が義援金として集めたのが約10億円ありました。当初この義援金を遺児の奨学金に使おうという計画を組みましたが、遺児の奨学金を継続してやっていくためには最低でも30億円なければ出来ないということと、ロータリーはあくまでも単年度の事業であることから使い道をなくしたという感じになり返金をしようという結果になりました。返金されたお金は自由に使って下さいということで、東日本復興基金の方に出したところ、被災地に直接出したところ、直接寄付したところといろいろでございます。返ってきたお金で、震災復興基金では助成金事業、各クラブで計画されたものには支援金として学校支援プロジェクトへ資金を回して行きました。

支援をするにしても最終的には原資がなくては出来ません。従ってほとんどのことは、財団の年次プログラム基金という形のものを使って行きます。そのロータリー財団の年次プログラム基金を知っておかなければなりません。原資を有効に生かすために、国際ロータリーのロータリー財団を使用するというところをした方が良いでしょう。皆様ご存知のように正規のマッチンググラントは同額補助金と言われるもので、地区からDDFを経てそれと同じ額を外国の援助国を求め集めた金に対して同額の金WFからいただくという形です。今回は震災に応じた形でロータリー財団は対応しようということで、100ドルルール、これは被災クラブが100ドル出せばあとの所で共同提唱者なりあるいは援助国でお金を出すという形です。ロータリー東日本震災復興支援チーム、これらはロータリー財団の息のかかった事業であります、今まで一番活動して

きたのは、ロータリー東日本震災復興基金委員会です。ただ、こちらで預ったお金は底をつきはじめており、3月31日で申請は終了という形になっております。この事業は正規のマッチングに比べて援助国がまじらなければならないという条件ははずしてあります。単独のクラブでも申請が出来る、財団プロジェクト条件の緩和等やり易さがあります。

ー 映像を使用しての話でした。以下紙面の都合上、割愛させていただきます。



佐藤尚ガバナー補佐の挨拶



会長要件、佐沼RC菅原文之会長



講演、八谷郁夫地区財団委員長



乾杯の発声、佐藤尚ガバナー補佐



懇親会にて、ガバナー補佐と